

AI時代を生き残る 知的財産セミナー



AI・IoT特許の傾向と対策
AIで勝つための法律知識と知財戦略

2019年6月24日 道経済センタービル8階第3会議室

(C)Nagatomo International Law Firm

1

【はじめに】 AIや知財に関する、こんな課題や悩みを解決します

①AIの基礎知識

【課題】事業でAIを活用してサービスや品質の向上、工数削減を行いたい。AIをどこに活用できるのを知りたい

②知財関連法令の基礎知識

【課題】今まで特許を殆ど申請したことがなく特許がどのように使えるのを知りたい
【課題】どこをどんな法律で守れるのを知りたい

③AI特有の知財対応

【課題】AIの導入を検討中又は計画中だが、AI関連システムのどの部分をどのように保護できるのを知りたい

④企業のAI対応と知財経営

【課題】社内の体制をどのように強化していけばよいのを知りたい

(C)Nagatomo International Law Firm

2

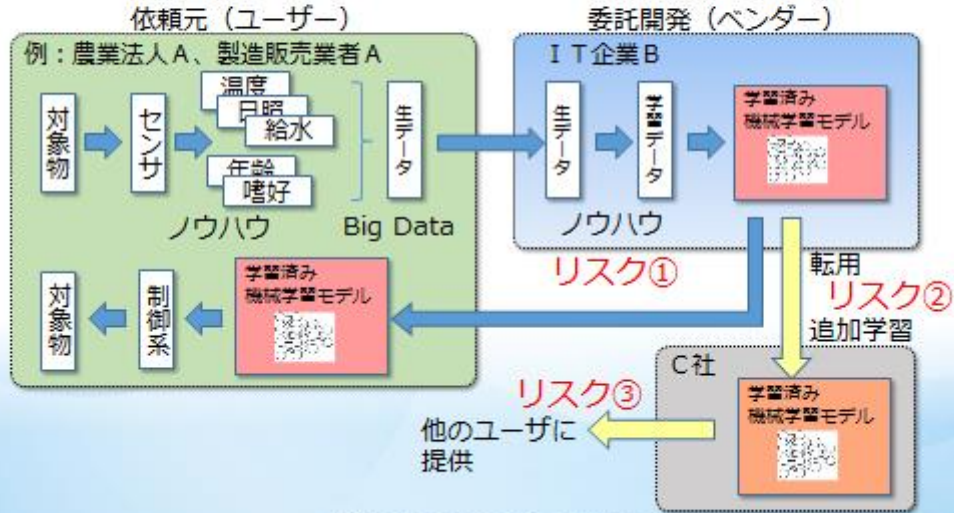
【はじめに】どこをどう守ればよい？

製造販売業者や小売業者の課題：

顧客の動向に関するデータを活用して、よりニーズに合った商品展開をしたい

農業法人の課題：

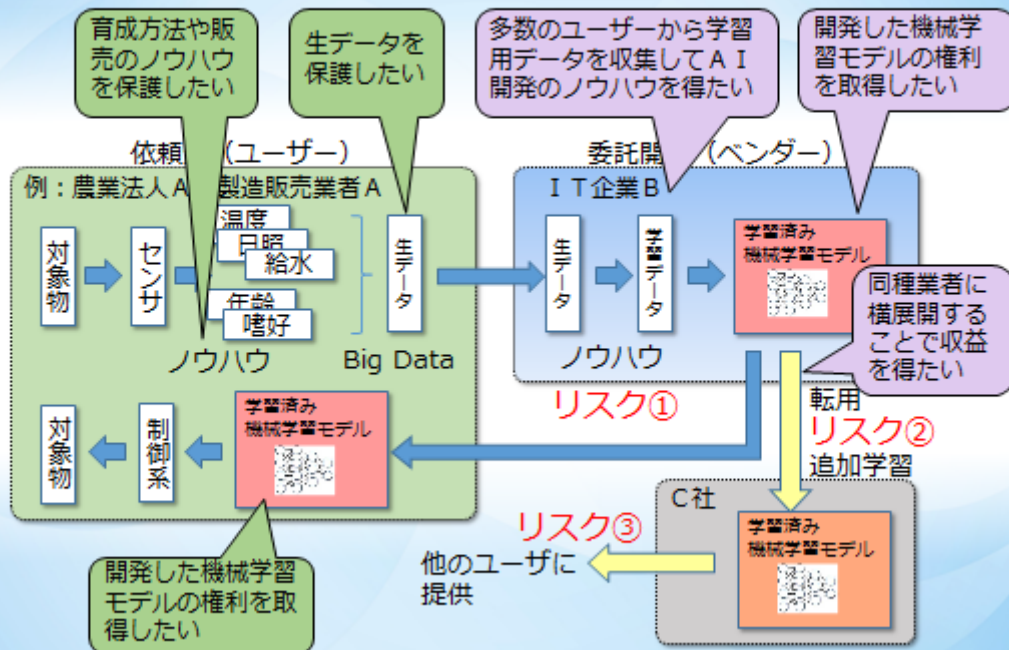
生産に関するデータを活用して、より精度が高い作物を継続的に生産したい



(C)Nagatomo International Law Firm

3

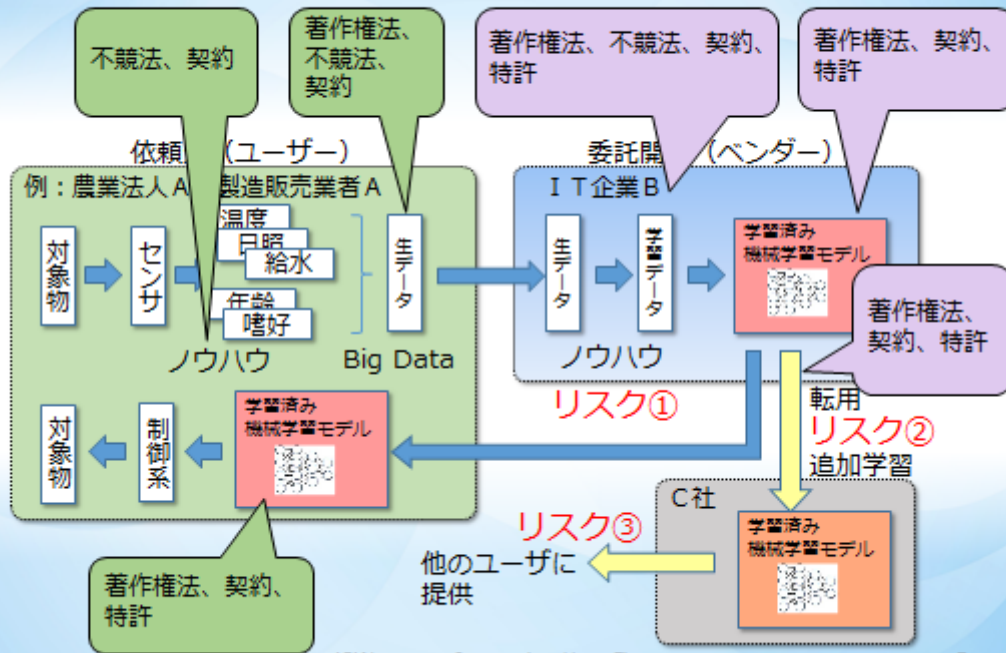
【はじめに】どこをどう守ればよい？



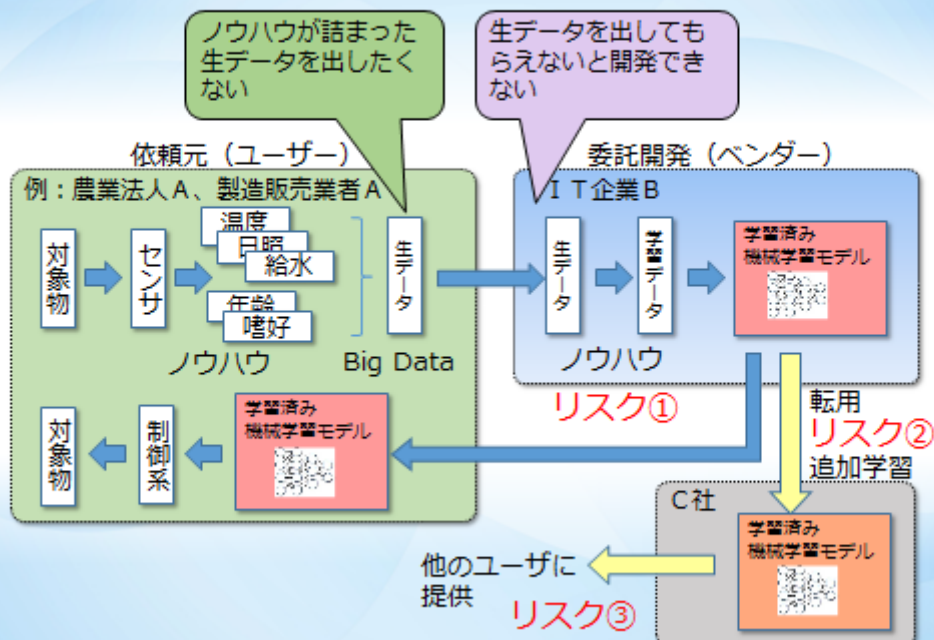
(C)Nagatomo International Law Firm

4

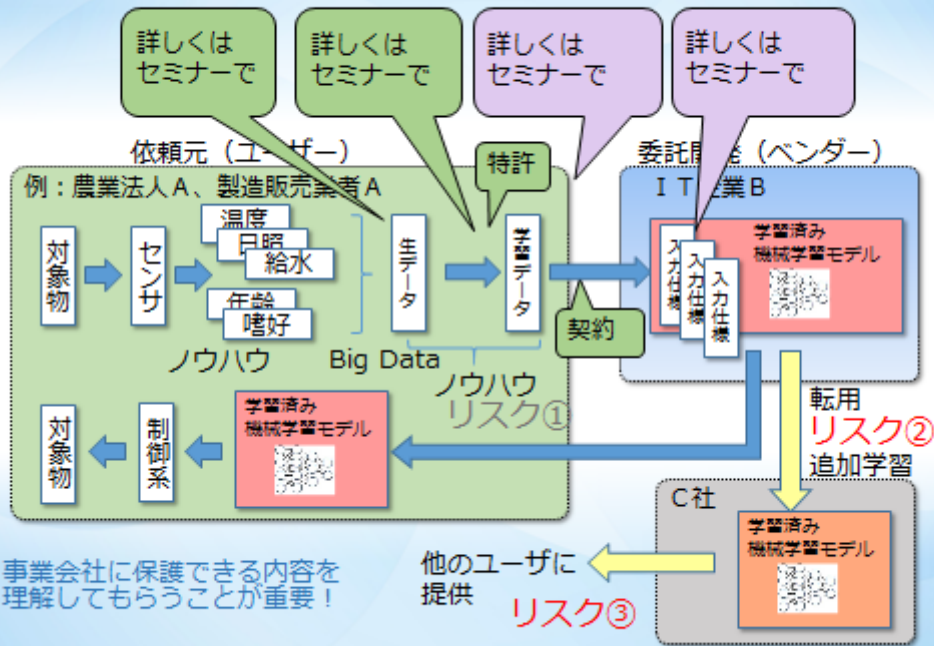
【はじめに】どこをどう守ればよい？



【はじめに】どうすればユーザからデータを出してもらえるか？

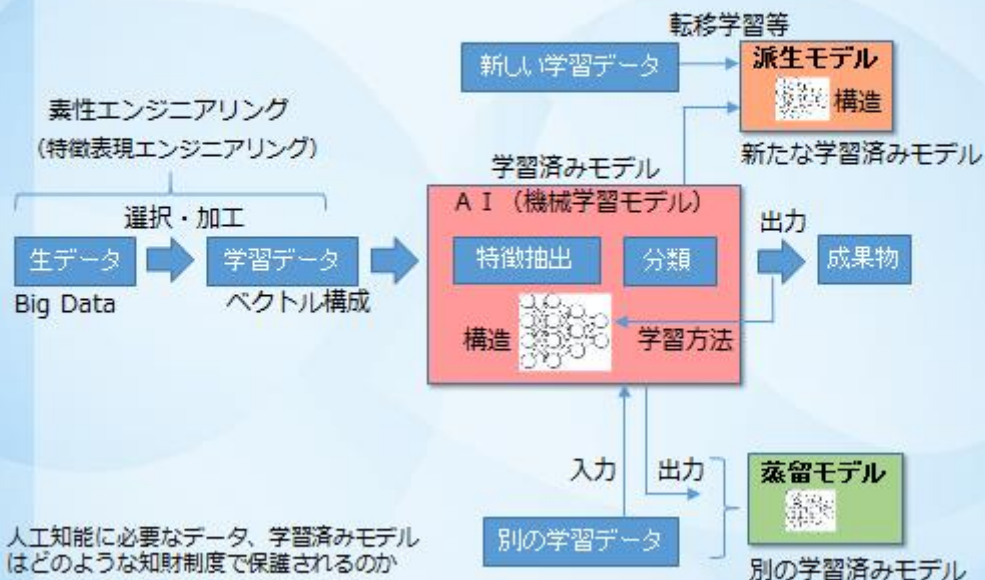


【はじめに】 どうすればユーザからデータを出してもらえるか？



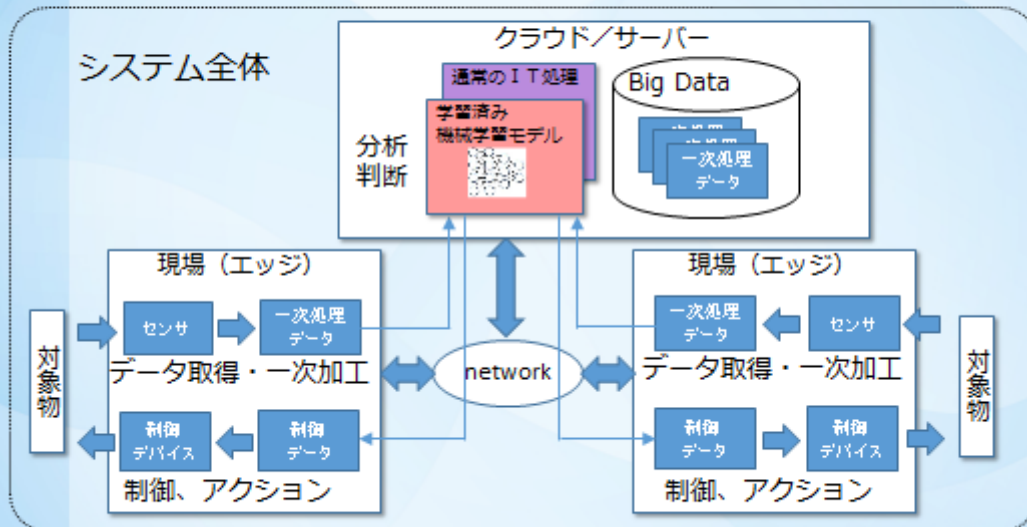
【はじめに】 AI・IoTのどこを特許で守れるか

◆ AI (Artificial Intelligence)開発の流れ

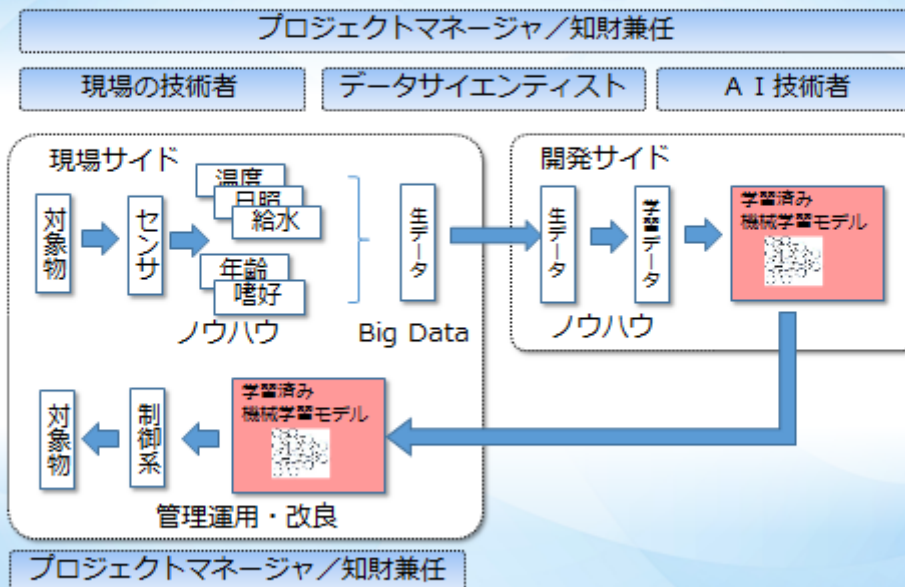


【はじめに】 AI/IoTのどこを特許で守れるか

◆ IoT (Internet of Things)システムの概要

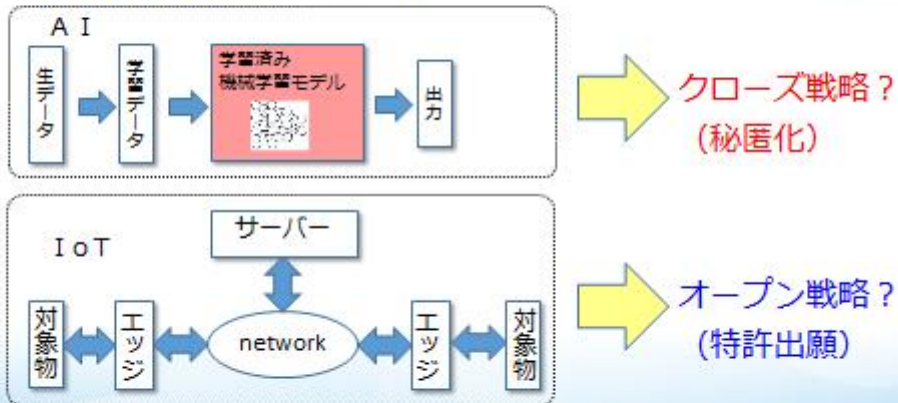


【はじめに】 社内の体制をどうすれば？



【はじめに】 クローズド戦略の嘘と本当

AIはリバースエンジニアリングができず、特許による保護も限定的だから
クローズ戦略、IoTはセンサ等が中心でリバースエンジニアリングが可能
だからオープン戦略が基本って本当？



※特許実務上のオープン（特許出願＝公開）・クローズ（権利化せずにノウハウ管理＝秘匿）という意味だけでなく、特許出願の有無によらず、事業戦略上のオープン（技術公開、他社に実施許諾）・クローズ（参入障壁、自社で独占実施）という意味も含む